

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

赤い屋根目ざして彼岸花の径

瀬戸内 紀子

黙々と刈りつゝ残す曼珠沙華

泊 康

行厨は櫓の大樹下曼珠沙華

宮路 生大子

大陽俳句会

うすうすと雲を被きて望の月

逆瀬川 節子

みそ萩の風に紛れて咲きにけり

鍋山 美智子

鬼灯や夫の遺影の笑み照らす

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

アンデスの峰を掠めるコンドルよ
インカの悲話をいまに教えよ

大森 巳喜生

題 字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

しつこきを物ともせず夏草を
素手で挽ぎとる夫は汗だく

平田 美穂子

台風明けて惨状覚悟で来たれども
我が田「どうだ」と胸張りてをり

泊 康

大陽短歌会

始まりを見逃すまいと畑に待つ

山頂明からみ名月昇り来

西山 美代子

幼日にカッコーワルツを連弾で
遊びし友の訃報届け

広川 ミドリ

ぐったりのバーバを残して女の孫は
「ホンナラナー」と手を振り帰る

竹内 娃子

財部短歌会

可憐なるコスモス咲けりわが孫よ
それしか見えない結婚式場

永岡 冴子

口中にスイカの種をくすぐれば
蜻蛉の群れは夏を追ひかく

脇丸 洋子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

健し爺が 勘が薄しがち

鈴木 一泉

やれ小言っ

ひねくれが 小言吠っ

浜田 一好

四苦八苦

小言が多け 婆んくせ

胡摩ヶ野 べぶまつ

値を値切っ

婆ん小言っ 何も聞ちよらん

桐野 奈世

爺の耳

大陽薩摩狂句会

プーチンに 制裁や効かじ

津留 群志

平然しっ

丸で人間 案山子しいつきな

小倉 りんりん

挨拶しっ

獣医校 畜産地域く

境 すやすや

盛り上げっ

世界中が 苛されっおい

新屋 涼子

異常気象